

IBMサーバライセンス管理のポイント

ソフトウェア資産管理評価認定協会

監事 島田篤

2016年6月10日

本セッションの資料・説明に含まれる内容は、IBMソフトウェア製品ライセンスの網羅性・正確性を保障するものではないことをご了承願います。

具体的なライセンス制度の確認及び、ソフトウェア製品利用の際にはIBMのHPや製品の使用許諾契約書をご確認いただけますようお願いいたします。

IBMサーバソフトウェアライセンスの違反事例 とその原因

IBMサーバソフトウェアライセンス違反でよく見られる事例

仮想化関連

- ① 物理サーバに搭載されたコア数分のライセンスが必要なところ、仮想サーバに割り当てたコア数分のライセンスしか保有していなかった。
- ② 仮想サーバで仕様書の設定と実機の設定が異なっていたため、想定していた以上のライセンスが必要になっていた。

インストール 関連

- ③ 使用しているバンドル製品のバージョンが、バンドル元製品で許諾されたバージョンと異なっていた為、バンドルライセンスを適用することができなかった。
- ④ 新システムに入れ替えが完了し廃棄予定となったサーバにソフトウェアが残っていた為、ライセンスが2重に必要なになっていた。

サポート 関連

- ⑤ サポートを受けるために必要なライセンス数を持っていない状態で、コールセンターに問い合わせがされていた。

ライセンス違反が確認されたシステムの管理担当者の説明

① 物理サーバに搭載されたコア数分のライセンスが必要なところ、仮想サーバに割り当てたコア数分のライセンスしか保有していなかった。

ベンダーの提案どおりにライセンスを買っていた。

② 仮想サーバで仕様書の設定と実機の設定が異なっていたため、想定していた以上のライセンスが必要になっていた。

ベンダーに任せていたので設定が異なっているとは思わなかった。

③ 使用しているバンドル製品のバージョンが、バンドル元製品で許諾されたバージョンと異なっていた為、バンドルライセンスを適用することができなかった。

バンドルソフトウェアのバージョンまで気にしていなかった。

④ 新システムに入れ替えが完了し、廃棄予定となったサーバにソフトウェアが残っていた為、ライセンスが2重に必要なになっていた。

使用していないのでライセンスは不要と思っていた。

⑤ サポートを受けるために必要なライセンス数を持っていない状態で、コールセンターに問い合わせがされていた。

ライセンスが足りなければコールを受付けないと思っていた。

ライセンス違反が生じた組織に共通する勘違い

ベンダーの提案どおりに
ライセンスを買っていた。

ベンダーに任せていたの
で設定が異なっていると
は思わなかった。

バンドルソフトウェアの
バージョンまで気にして
いなかった。

使用していないのでライ
センスは不要と置いてい
た。

ライセンスが足りなけれ
ばIBMがコールを受付け
ないと思っていた。

【ライセンス違反が生じた組織に共通する勘違い】

- ベンダーが納品した状態から設定を変えずに使っていればライセンス違反にならない。
- ソフトウェアの使用許諾契約は細かい文字で書いていて内容を理解できないので読まなくてよい。
- ベンダーはユーザがライセンス違反にならないように何かしらの制限をかけているはずだ。
- ライセンス管理担当者だけが気をつければライセンス違反は起こらない。

ライセンス違反を防ぐために持つべき認識

ライセンス違反につながる勘違い

ベンダーが納品した状態から設定を変えずに運用していればライセンス違反にはならない。

ソフトウェアの使用許諾契約は細かい文字で書いていて内容を理解できないので読まなくてよい。

ソフトウェアベンダーはユーザがライセンス違反にならないように何かしらの制限をかけているはずだ。

ライセンス管理担当者だけが気をつければライセンス違反は起こらない。

ライセンス違反を防ぐ為に持つべき認識

ベンダーの見積、仕様書通り導入・運用してもライセンス違反の責任はライセンスを保有する組織が負う。

ソフトウェアの使用許諾契約の内容を理解しなければライセンス違反は防げない。

ソフトウェアを使用する組織が管理を行わなければならない。

ソフトウェアを使用する全ての要員が管理の意識を持つことが必要。

IBMサーバライセンス管理のポイント

IBMサーバライセンス管理のポイント

1

使用ライセンス数の算出方法を理解する

2

「見積・提案書」を理解し「実機」を確認する

3

ベンダーを活用すべきだが丸投げしない

4

使用ライセンス数の算出に必要な情報を把握出来る状態にする

5

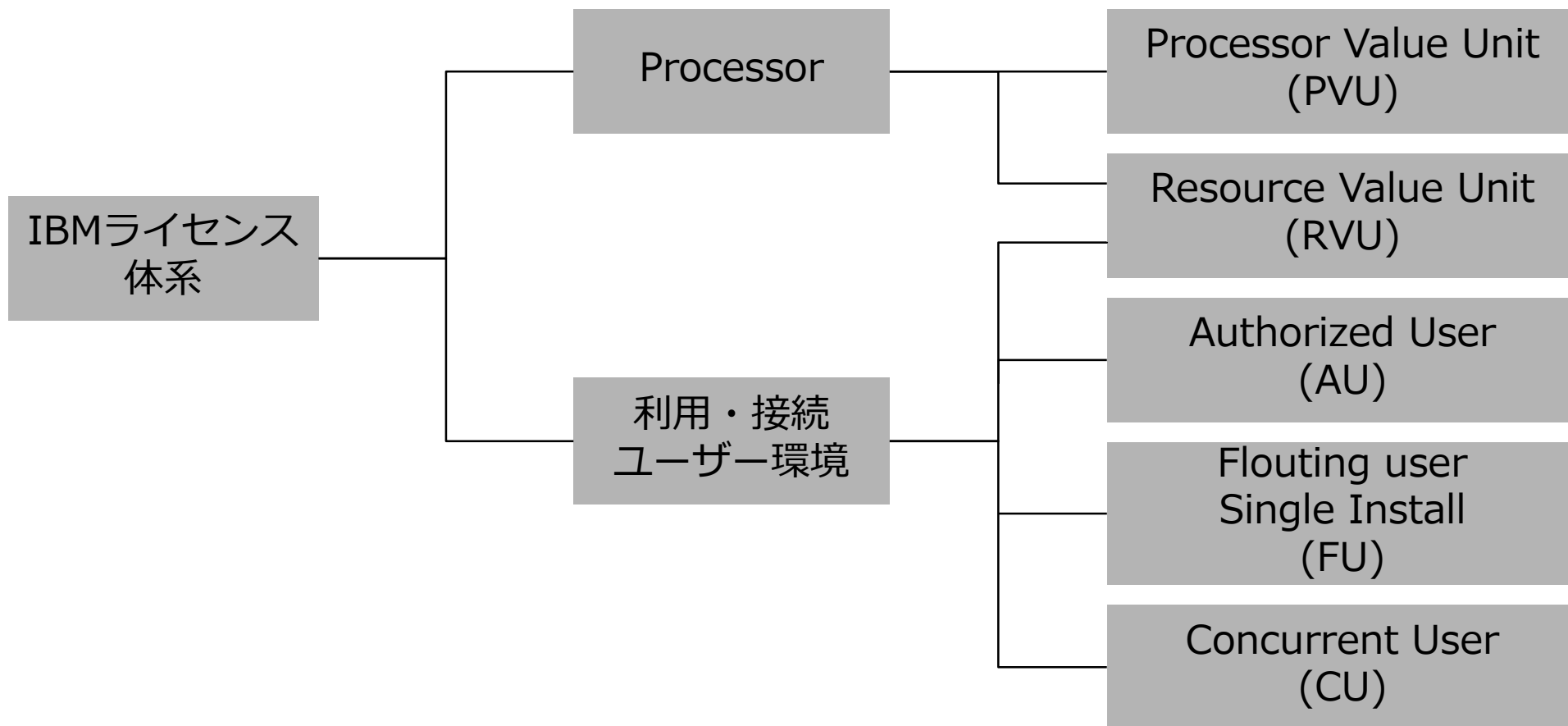
ライセンス数が変動するイベントを把握する

6

ライセンス数が変動するイベントに関係する部署と連携を取る

1.使用ライセンス数の算出方法を理解する①

IBMソフトウェア製品の主なライセンス体系



サーバに導入するソフトウェアの場合、コア数に応じて使用ライセンス数を算出するPVUライセンスが適用される製品が多い。

1.使用ライセンス数の算出方法を理解する②

【PVUライセンス数の算出方法】
ソフトウェアが導入されたサーバのコア数×PVU係数

使用ライセンス数を算出するための要素を理解する。

1.使用ライセンス数の算出方法を理解する③

ソフトウェアが導入されたサーバのコア数

□ 理解しておくべき条件

- PVUライセンスが適用される製品の使用ライセンス数は、物理サーバのコア数で算出する（フルキャパシティ）。しかし、特例として仮想サーバに割り当てられたコア数で使用ライセンス数を算出すること認められている（サブキャパシティ）。
- 特例（サブキャパシティ条件）を満たすためには、IBM License Metric Tool（ILMT）をインストールし、ILMTから四半期に1回レポートを出力し、IBMからの要求に応じて提示できる状態にしなければならない。
- 「IBM Softlayer」「IBM Cloud Managed Service」「Amazon EC2」「Microsoft Azure」上でIBMのPVUソフトウェア製品を導入する場合、サービスで割り当てられたコア数を用いて使用ライセンス数を算出することが可能。

PVUライセンスの場合、どのコア数でライセンス数を算出することが許諾されるか？その根拠と合わせて理解する。

1.使用ライセンス数の算出方法を理解する④

PVU係数

□ 理解しておくべき条件

- PVU係数はサーバに搭載されたCPUのブランドと型番に応じてIBMが設定。
(例：Intel Xeon 5500～5699 (2Socket/SV) =70 IBM Power7 770=120)

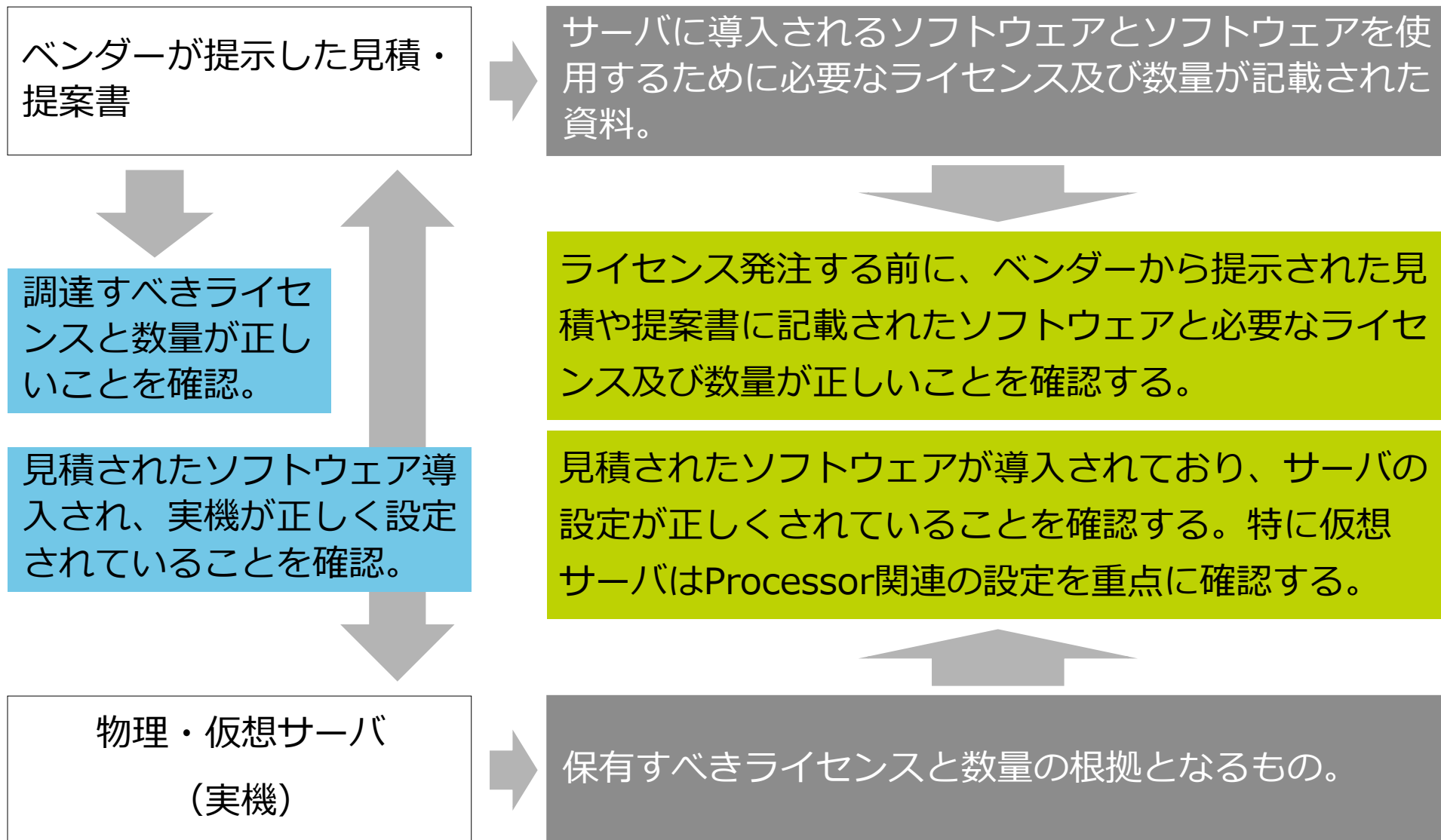
※PVU係数は下記IBMのHPに掲載。

http://www-01.ibm.com/software/passportadvantage/pvu_licensing_for_customers.html

- PVU係数はサーバに搭載されたCPUのほかに、サーバに設置されたソケット数により係数が変わる場合もある。
- PVU係数はIBMによるライセンス制度変更のタイミングで変更される場合がある。

PVU係数を確認できるよう、サーバに搭載されたCPUのブランド、型番とソケット数を台帳に登録しておく。

2. 「見積・提案書」を理解し「実機」を確認する



3.ベンダーを活用すべきだが丸投げしない

IBMのライセンスは複雑で難しいものが多い。



IBMソフトウェア製品を取り扱うベンダーのほうがライセンスに関する知識と情報を持っている。



- 必要なライセンス及び数量だけでなく、必要ライセンスの選定及び数量の算出根拠をベンダーに提案させる。
- 可能であれば複数のベンダーから提案を受け、提案の内容を比較する。



ベンダーの方が知識と情報があるからといって丸投げしてはいけない（ライセンスの管理責任は自組織が持つため）。しかし、ベンダーを活用して必要なライセンスとライセンス数の算出方法とその根拠を理解する。

4.使用ライセンス数の算出に必要な情報を把握出来る状態にする

使用ライセンス数を算出するために把握すべき情報

1.ハードウェア

組織が保有するハードウェア（サーバ）と構成情報を取得する。

- ❑ CPU等使用ライセンス数の算出に必要な構成情報を把握する。
- ❑ 待機系サーバの場合、待機状態も把握する。

2.導入ソフトウェア

ハードウェアに導入されたソフトウェア情報を取得する。

- ❑ 可能な限りインベントリ収集ツールを活用し網羅性と正確性を確保する。

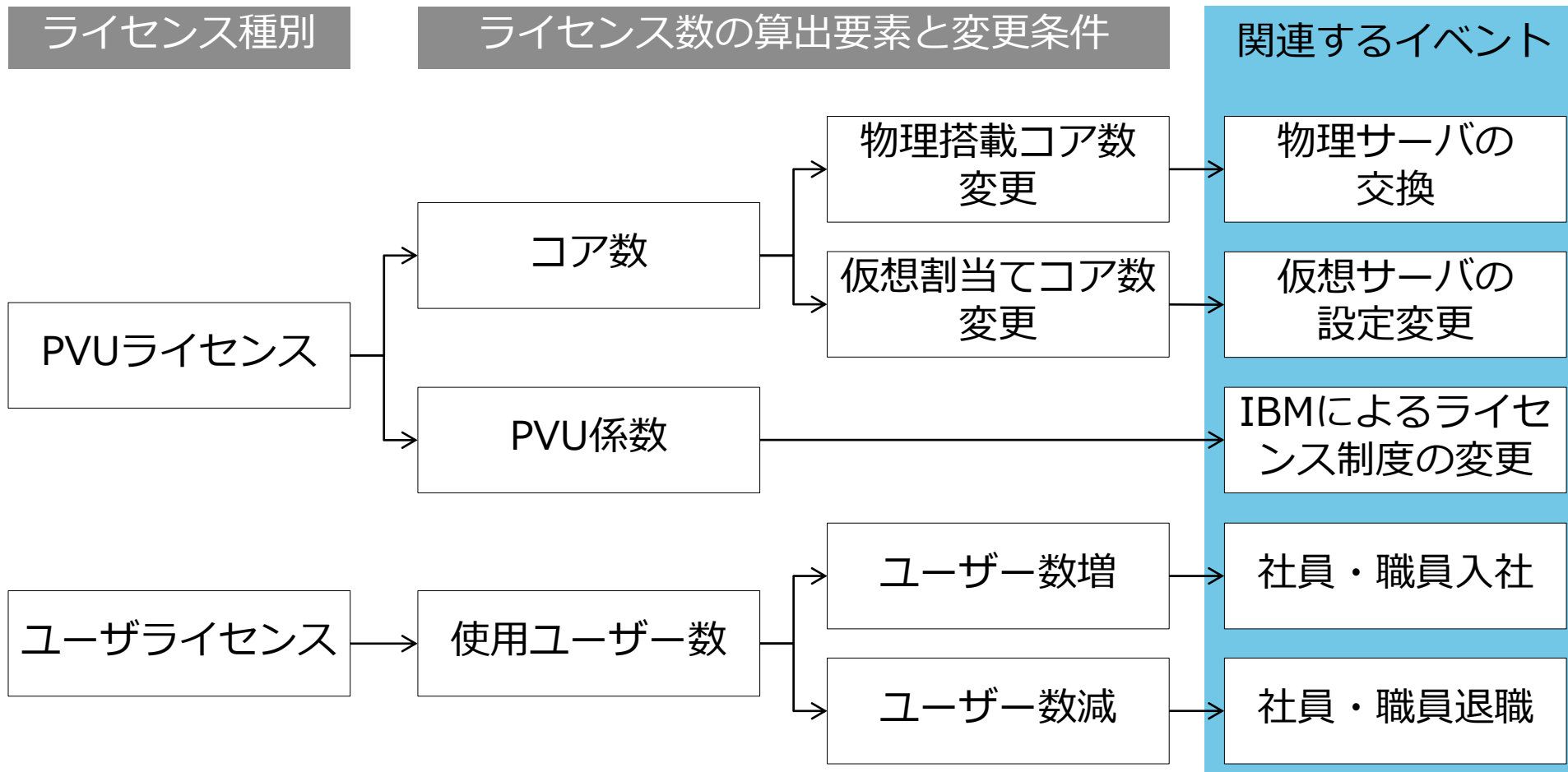
3.保有ライセンス

組織が保有すべきライセンス情報を把握にする。

- ❑ ライセンス名や数量だけでなく、契約時に設定されるSite番号とAgreement番号も把握する。

システムの仕様書などサーバ構成や導入ソフトウェアが確認できる資料と、実機の状態に差異がないか確認したうえで台帳に情報を登録しておく。

5.ライセンス数に変動するイベントを把握する



ライセンス種別ごとにライセンス数に変動する条件と関連するイベントを洗い出し把握する。

6. ライセンス数に変動するイベントに関係する部署と連携を取る

関連するイベント

物理サーバの
交換

仮想サーバの
設定変更

IBMによるライ
センス制度変更

社員・職員入社

社員・職員退職

使用ライセンス数の変更が発生するイベントが予定された場合、サーバ運用担当部門・担当者から事前に情報を提供してもらう。

ライセンス制度の変更をウォッチする担当とタイミング決め定期的に確認をする。

(ISO/IEC : 19770-1では年1回確認することが定められている)

社員・職員の入社・退職が決まった時点で人事担当者から事前に情報を提供してもらう。

イベントの計画段階で情報の連携をしてもらい、使用ライセンス数の変更有無とライセンス過不足数のシミュレーションを行い、必要に応じてライセンスの調達を行う。

まとめ

まとめ

ライセンス違反を防ぐ為に持つべき認識

- ソフトウェアの使用許諾契約の内容を理解しなければライセンス違反は防げない。
- ベンダーの見積、仕様書通り導入・運用してもライセンス違反の責任はライセンスを保有する組織が負う。
- ソフトウェアを使用する組織が管理を行わなければならない。
- ソフトウェアを使用する全ての要員が管理の意識を持たなければライセンス違反は防げない。

IBMサーバライセンス管理のポイント

1. 使用ライセンス数の算出方法を理解する
2. 「見積・提案書」を理解し「実機」を確認する
3. 使用ライセンス数の算出に必要な情報を把握出来る状態にする
4. ベンダーを活用するが丸投げしない
5. ライセンス数が変動するイベントを把握する
6. ライセンス数が変動するイベントに関係する部署と連携を取る

IBMサーバライセンス管理のポイントはライセンス違反を防ぐために持つべき認識と関連付けて理解し、具体的な管理を行う。

The logo for SAMAC consists of the letters S, A, M, M, A, and C. The 'S' and 'C' are red, while the two 'M's are blue. The letters are stylized and connected at the base.

一般社団法人 ソフトウェア資産管理評価認定協会